



写真：IMF

時代にふさわしいブレトン・ウッズを

次世代に宛てた手紙の中で、クリスティーヌ・ラガルド専務理事が国際経済協力に対する決意を新たにすよう呼びかける。

クリスティーヌ・ラガルド

次世代の皆さま

拝啓

2019年も半年が過ぎようとしていますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今日は私たちの歴史に少し触れ、未来について考えをいくつか共有させていただきたいと思います。そう、皆さんの未来についてです。75年前、40を超える国々の代表者が世界経済の新しいルールについて合意するために会議を開きました。暑い夏でしたので、会議はニューハンプシャー州の涼しい山中にあるリゾート地、ブレトン・ウッズで行われました。ほとんどの代表が、第二次世界大戦の戦火がまだ広がる国々から送り出されていました。

ブレトン・ウッズに集った代表たちは、第二次世界大戦という惨禍を招いた間違いを二度と犯さないことを誓いました。大戦前、各国は協力ではなく、保護主義的な経済政策を実行し、世界恐慌をただ悪化させました。その結果が大量の失業と大衆の怒りだったのです。こうして、独裁主義、侵略、戦争への種がまかれました。

ブレトン・ウッズ会議によって、諸国の相互協力が各国の国益となる国際経済協力の新しい時代が始まりました。国々は、連帯こそが自らの利益であることを証明しようと試みました。代表者たちは国際通貨基

金(IMF)を創設し、3つの重要な使命を託しました。この3つの使命とは、国際通貨協力を促進すること、貿易と経済成長の拡大を支えること、繁栄を阻害する政策の阻止を図ることです。

その後、世界経済には根本的な変化が起こりました。この75年間、IMFはその使命に忠実でありながら、こうした変化に適応してきました。現在、IMFには189か国が加盟していますが、私たちは「資金、頭脳、心」をもって、加盟国に貢献し続けています。IMFは質の高い政策助言、技術支援、制度や能力の強化のための研修を提供していますし、また、危機に陥った国が必要な政策措置を取っている間、資金や一息つく余地を得られるように支援しています。さらには、人々の生活を豊かにするために、より良い政策を考案しています。

ブレトン・ウッズで各国を代表した人々は、その目標を達成できたのでしょうか。この問いには、間違いなく「達成できた」と答えられます。今日、多くの人々にとって、寿命が延び、より健やかで豊かな生活が実現しています。国際貿易の拡大は、各国経済の成長加速、雇用増大、所得上昇に寄与しています。貿易のおかげで、低所得国では一般的な世帯の生活費が3分の2減少し、先進国では4分の1減りました。世界に目を向けると、10億を超える人々が貧困を脱しました。

一方、いまだ多くの人々が貧困に苦しみ、機会に恵

まれていません。若者たちも最も不利な立場に置かれています。多くの低所得国にとって、2030年までの「持続可能な開発目標(SDGs)」達成は困難であり、若い世代が思い通りの成功を実現するチャンスを得られないことになりそうです。貧困、格差拡大、技術革新は怒りや不満を増幅させています。汚職など腐敗は、制度への信頼失墜を招いています。

こうした一連の変化は、一方的で独善的なアプローチが生じる原因となる感情につながっています。歴史はこれが破滅につながる道だと教えてくれます。この道を進むと、あの世界恐慌後のように、国際的な信頼や協調が崩壊する「怒りの時代」が到来しかねません。

機会の創出

しかし、この悲惨なシナリオが不可避だと私は思っています。むしろ、私たちには「創造性の時代」を作り出す責任があると考えています。そして、この「創造性の時代」を創る勇気を持つことが必要です。車も、家も、工場も再生可能エネルギーを動力源にできずし、女性は男性と同じ機会と給与を得られます。イノベーション、つまり皆さんの発明によって、誰もがより良いチャンスをつかめるようになるのです。

私たちはどのように、このビジョンを現実に変えることができるのでしょうか。

その答えの一部は、私がこれまで提唱してきた「新しい多国間主義」の中にあります。皆さんは常識とお呼びになるかもしれませんが、つまり、経済機会が必ずより広く共有されるようにして、世界中の若者が成功し、社会に貢献する機会を持てるようにすることです。各国政府や諸機関が確実に共通の利益のために働くようにすることでもあります。また、諸国が協力してグローバル課題に取り組むことでもあります。

変化が必要なものは何でしょうか。

最優先事項は人々が成功できる国内環境を政策当局が整備することです。この点に関しては、質の高い教育、医療、インフラを利用できるようにして、とりわけ弱い立場の人々など、さらに多くの人々がチャンスを得られるようにする上で、財政政策が極めて重要です。多くの国で、これは若者や女性に特別な注意を払うことを意味します。

過度の格差の解消も必要です。各国に合った累進的な税施策の実施を通じて、また、技術進歩やグローバル化がもたらす混乱への対処に役立つ社会的セーフティネットの強化を通じて、財政政策がここでも重要な役割を果たします。中央銀行は、貧しい人々にとって最悪の税であるインフレーションに警戒すべきです。そして、規制当局は、10年前に世界金融危機を招き経済を衰弱させた、ある種の過剰な金融投資から一般市民を守る必要があります。

このような政策措置を役立てることで、信用や信頼を構築し、経済的利益が不公平に分配されているとい

う認識を解消していけるでしょう。

国際的には、国境を越えて平等な競争条件を提供すべきです。この点では、貿易に大きな存在感があります。長年にわたり、国境を貿易のために開くことで、新しい技術が広がり、生産性が向上し、さらに賃金の高い雇用が無数、新たに創出されてきたことを私たちは知っています。同時に、誰もが恩恵を受けたわけではなく、貿易システムには歪みが存在し、改革が必要であることも理解しています。

もうひとつの課題は国際課税です。国際企業が正当な金額の税金を確実に支払うようにする必要があります。国際企業への課税の改革なしでは、人々やインフラに不可欠な投資の資金源として必要な税歳入を国々が失うことになります。

これらは、私が感じている課題の一部です。そして、次世代の皆さんのおかげで世界が目を向けるようになった問題がふたつ存在します。

ひとつ目は、地球の未来そのものに脅威を与えている気候変動です。カリフォルニアの山火事やモザンビークの熱帯暴風雨など、皆さんはすでに影響の高まりを身近に体験しているかもしれません。環境に配慮した経済政策が人類存続の脅威となるこの問題の解決に役立つこともご存知だと思います。環境対策のための計画がないのであれば、経済についての計画がないことに等しいのです。

若者たちが気にかけている問題のふたつ目が腐敗です。皆さんは不公平だと思われるでしょうが、そう思われるのも当然です。賄賂だけでも、年間で1.5兆ドルから2兆ドルの資金が世界で失われています。これは、腐敗が社会に与える深刻な悪影響を考慮していない数字です。私たちがより公平かつ強い経済を構築するためには、腐敗という病を治す必要があります。

最初のブレトン・ウッズ会議において、米国の財務長官ヘンリー・モーゲンソウは次のように述べました。

「繁栄に際限はありません。繁栄、それは平和のように、分割できないものです。繁栄を一部の幸運な人たちの間に散在させたり、他者の利益を犠牲にして享受したりすることはできません」

75年の歳月を経て、私たちが直面している課題のリストは気が遠くなるほど困難なものに思えるかもしれませんが、しかし、ニューハンプシャーに集まった各国代表が向き合った諸課題よりも難しいわけではありません。今こそ、国際的な経済協力を進める決意を新たにする時です。私たちがより一層の繁栄を築けるように。一部の幸運な人々のためだけではなく、あらゆる人々のための繁栄を実現できるように、思いを新たにすべき時なのです。FD

敬具

クリスティーヌ・ラガルド

クリスティーヌ・ラガルドは国際通貨基金(IMF)の専務理事。